







右は早敷の... 思ひ付き... アニオンに... 三守の...  
に有る... とも思ふ

植舟) 三月十の... 四月の古... 終る... せら

自生可敷) は九月十の... 枝... 葉は

... 上... サツ... 四何... 位... ノ... と

眠(七言) ... 位... の... と... アニオン

... 位... の... 位... 位... 位... 位...

... 位... の... 位... 位... 位... 位...

... 位...

伊地... 家... 二十... 位... 水... 一... 年... 町... 二... 年... 中

他... 位... 地... 主... お... と... なる... と... なる...

... 位... の... 知... 知... 知... 知... 知...

... 位... の... 知... 知... 知... 知... 知...

... 位... の... 知... 知... 知... 知... 知...

... 位... の... 知... 知... 知... 知... 知...

故に... 水... の... 運... 送... 大... 作... コ... ラ... ト... ヲ... 上... 流... なる... 水... する







人會社創立  
目論書目

資本金 九千円

一口二千円  
 澤村 一口引受

昌 二 一口  
 隆 石 二 一口

澤村 年俸 千五百円  
 昌 二 年俸 千五百円

隆 石 二 年俸 千五百円  
 昌 二 年俸 千五百円

可持金を不足の程に備ふことを志す

職務  
 人的材料

耕作を擔任

昌 二  
 隆 石 二

経営

耕作

補助及通信

利息ある場合  
 七歩の利息  
 二歩  
 五歩

積立  
 専出 塔典

スカーヒン

各を筆取り  
 隆石の上記記録  
 澤村の  
 昌二の  
 隆石の

月給二十五円とす

123  
 360  
 108



元回抄込

一 九千五  
二 二万五千  
三 一万五千  
四 一万五千  
五 一万五千  
六 一万五千  
七 一万五千  
八 一万五千  
九 一万五千  
十 一万五千

在来の経路に粟町が二十五種生産元となつた  
を合算し九十粟町分  
へ  
能成せし七粟町所出の十種粟町の計  
は、  
建策迄  
税代  
ア、  
イ、  
ウ、  
エ、  
オ、  
カ、  
キ、  
ク、  
ケ、  
コ、

油代  
諸修繕費

其の便  
ア、  
イ、  
ウ、  
エ、  
オ、  
カ、  
キ、  
ク、  
ケ、  
コ、

ア、  
イ、  
ウ、  
エ、  
オ、  
カ、  
キ、  
ク、  
ケ、  
コ、

ト、  
チ、  
リ、  
ニ、  
ホ、  
ヘ、  
コ、  
セ、  
ソ、  
タ、  
チ、  
リ、  
ニ、  
ホ、  
ヘ、  
コ、  
セ、  
ソ、  
タ、

ル、  
ハ、  
ニ、  
ホ、  
ヘ、  
コ、  
セ、  
ソ、  
タ、  
チ、  
リ、  
ニ、  
ホ、  
ヘ、  
コ、  
セ、  
ソ、  
タ、

水代  
税金  
利子

税金

利子

計

一 九千五百

税獲總費

作給

合計

一 九千五百

ト、  
チ、  
リ、  
ニ、  
ホ、  
ヘ、  
コ、  
セ、  
ソ、  
タ、  
チ、  
リ、  
ニ、  
ホ、  
ヘ、  
コ、  
セ、  
ソ、  
タ、

一 九千五百

二 二万五千

三 一万五千

四 一万五千

五 一万五千

總支出

(十) 收穫物  
一 九千五百  
二 二万五千  
三 一万五千  
四 一万五千  
五 一万五千  
六 一万五千  
七 一万五千  
八 一万五千  
九 一万五千  
十 一万五千

一 五千拜  
二 四千五百拜  
三 三千拜  
四 四百拜

合計 一万六千五百七十拜  
早知跡行 地球工カニ 哀町古儀 儀十拜  
早知草及云アカシ  
早知草及云アカシ  
哀町古儀 儀十拜

(出) 收支差引 三九三 三九四 百七十九拜  
是を以て 三九三 三九四 百七十九拜  
お入らぬ思はる

某島の全儀評價六千拜  
是の儀を以て 別日 毎五百拜を借し 拜して 是を  
是の儀を以て 別日 毎五百拜を借し 拜して 是を

前書

美の世に依りて振る舞ひは總てあふ付道に委ねけり  
何れも一掃人常は委ねるに現る事申すは是れ  
依りて解せしめ尚彼に解し易し  
立方集を依りて示すは其書同封集を以て高  
覚しきは是れ異存すあらは又示すは其書同封集を以て高  
振る舞ひの事也

あはれおのこを  
玉の和を別甲

何れにしろともさふ最少限のに改めし  
すや其要あり其上甚るる書法は使に任せし  
形を故彼すの心氣を法らかに現すは此の  
か書なりやに彼すに依りて其書なり  
中より力思ふ事の上は梨作は  
先の中なるに依りて振る舞ひの事也  
此の書なりは其書なりは其書なり  
彼は是れ因位の故に其書なりは其書なり  
一より其書なりは其書なりは其書なり

尚ふ其書なりは其書なりは其書なり  
一は其書なりは其書なりは其書なり  
此の書なりは其書なりは其書なり  
生へ其書なりは其書なりは其書なり  
此の書なりは其書なりは其書なり  
此の書なりは其書なりは其書なり  
一寸味をやりませり

